たところ，妊娠16週，出産後3か月であった．乳腺の活動に伴い乳腺への集積が増加するのではないかと考え，基礎的検討の1つとしてラットによる実験を行った．その結果，乳腺の活動に伴い ^{201}Tl の増加する傾向のあるデータを得た．また，最近経験した3例目の症例では，乳汁のカウントを行い ^{201}Tl が乳汁とともに分泌されることを確認した．以上の点を考慮し，妊娠および授乳中の患者への ^{201}Tl の投与には十分な注意が必要と考えた．

9. 肺線維症における肺換気血流ミスマッチの検討

長瀬　雅則　大杉　文雄　守谷　悦男
間島　寧興　川上　憲司　（慈恵医大・放）
島田孝夫　（同・三内）

今回われわれは，肺線維症と診断された22症例における肺換気血流ミスマッチについて比較検討した．肺換気血流シンチグラフィ (Kr-81m, Xe-133, Tc-99m-MAA) によりミスマッチの程度を無，軽度，中等度，重度の4段階に分類した．その結果はおのおの，7例，8例，4例，3例であった．次に，その重症度分類と，PaO_2 および DLco との相関関係を検討した．PaO_2 に関しては各群との間に有意差を認めなかった．また，DLco に関してはミスマッチのある群は，ない群に比べて DLco は有意に減少していたが，ミスマッチのある群の間では有意差を認めなかった．以上より肺換気血流シンチグラフィは肺線維症の重症度の指標の一つとして重要と思われた．

10. ^{123}I-IMPによる肺のシンチグラム：肺 IMP は何をあらわすか

折井　弘武　三田　迪哉　中村　健
（東京厚生年金病院・放）
原田　俊一　川端　正博　最上　秀夫
井川　道春　（同・内）

目的：IMP による肺スキャンが何をあらわすかについて肺癌の4例および ARDS ハイリスク1例について考察した．

方法：3 mCi のパーヒューザミンをボーラスで注入 0–540 秒 (9 分) 10秒／フレームで撮影した．一方静止画像も撮影，さらに標準物質として ^{99m}Tc-MAA にて肺血流スキャンを行った．

結果：肺 IMP シンチグラムは MAA に類似しており，ワンパスで飽和し，Washout がほとんどなく，実際上肺血流をあらわしていると考えられる．肺癌症例では該当部位に欠損が認められ MAA と同じ画像が得られた．ファクターアナリシスは行っていない．また長時間の Washout についてはコンピュータの能力が追いつかないので保留した．

謝辞：レ線写真および IMP, MAA 画像の判定は中央鉄道病院白石透副院長（呼吸器内科）にご協力頂いた．

11. 骨転移を疑われた症例の骨髄シンチについて

中島　禎一　中島光太郎　石川　演美
秋貞　雅祥　（筑波大・放）

悪性腫瘍患者のうち，単純撮影，骨シンチグラフィーで，椎骨や骨盤骨に骨転移の疑われた23例に対して骨髄シンチグラフィーを施行した．

骨シンチグラフィーと単純撮影で診断が確定しない場合や，骨硬化性変化が骨転移であるのか骨の変形性変化であるのか鑑別を要する場合に，さらに骨髄シンチグラフィーを行って比較検討することが，骨転移の有無の判定に有用であった．

CT との対比例は少ないためさらに検討を要するが，腰椎，骨盤骨における骨転移の検出能は，決して劣らないと考える．

骨髄シンチグラフィーによるびまん性骨転移患者の治療経過観察も，可能であると思われる．

12. 血管柄付骨移植における骨シンチの役割
——ウサギモデルによる血管開存と新生骨形成能の評価——

寺原　敦朗　大嶽　達　渡辺　俊明
小坂　登　西川　潤一　飯尾　正宏
（東大・放）
高戸　毅　波利井清紀　（同・形成外）

われわれは，ウサギ下腿に膝窩動静脈を血管柄とする脛骨片を作成し，移植術後の骨片の ^{99m}Tc-MDP の取り込みの推移と非脱灰研磨標本の骨動態との関連について比較検討した．Group A: 島状脛骨群（コントロールとして血管結紮群），Group B: 骨髄露出群，Group C: 荷

Presented by Medical*Online